

現場のニーズに応える、保守サービスの進化

インフラの安心と信頼を支えるファシリティマネジメント

関連するマテリアリティ

カーボンニュートラル社会の実現

安心・安全・便利な社会の実現

価値提供のアップグレード



お客様機場で電気設備の安心・安全を支える明電エンジニアリングの技術サービス員

明電グループ 保守サービスの強み

明電グループのフィールドエンジニアリング事業の強みは、国内35か所のサービス拠点と全国8,000社の納入実績からくる地域密着型のサービス体制にあります。また、明電舎製品に関する豊富な知識・知見を全拠点で共有し、設備の老朽化や延命化ニーズに対する迅速かつ

的確な対応力にあります。早期から予防保全にも着目し、時間基準保全(TBM)から状態基準保全(CBM)、更にはリスク基準保全(RBM)へと進化させ、高い現場力とライフサイクル・エンジニアリングを武器に「お客様とともに歩む」視点で課題解決に取り組んでいます。

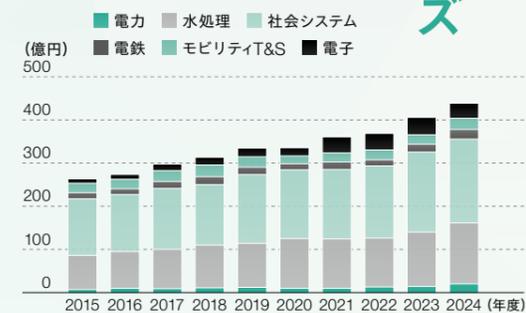


豊富な製品知識や対応力を持つ技術サービス員

現在、フィールドエンジニアリング事業の市場環境は、大きく変化しています。インフラ設備の老朽化が進んでいるにもかかわらず、人口減少による自治体財政のひっ迫などにより、新設需要が減少する一方、既存設備の延命化ニーズが高まっています。社会インフラ以外の領域においても、技術サービス員不足による、予兆保全・予防保全やドローン・ロボットを活用したスマート保安の需要拡大など、近年、メーカーメンテナンスの価値が向上しています。更に、環境配慮の観点から省エネ・GHG排出削減、再エネ

へのシフトの潮流の中で、設備・機器の保守サービスの強化が求められるなど、当社が取り組む保守メンテナンスの重要性は益々増大しています。

過去10年間の受注高推移(分野別)



※上記は明電エンジニアリング単独の数値

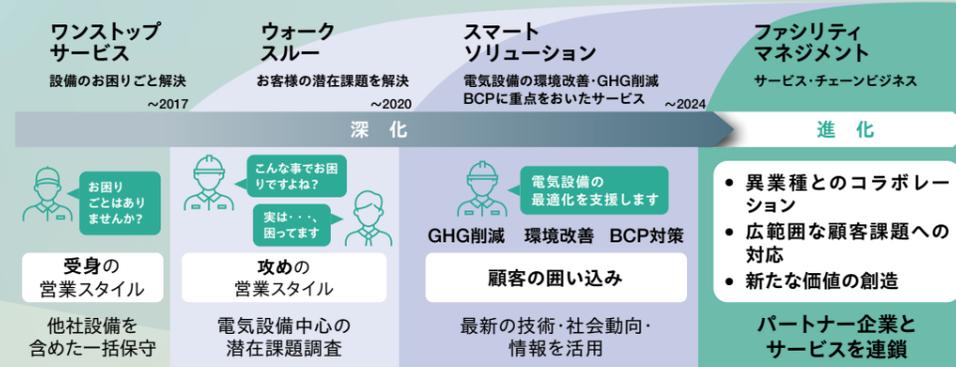
増加する 保守ニーズ

ワンストップサービスの深化

明電グループは、2015年からワンストップサービスを展開し、他社製品を含めたお客様の設備の課題発見から解決まで、一括で対応する差別化戦略を推進しています。同サービスは現在、フィールドエンジニアリンググループの売上の約3割を占めるまで成長しています。無償診断やウォークスルー活動、デジタル活用によるスマート保安などを通じて、お客様の潜在的な課題を洗い出し、環境負荷低減や

BCP対応も含めた総合的なソリューションを提供しています。人口減少によるインフラのダウンサイジングが進む中、異業種とのパートナーシップが競争力強化の鍵となります。保守点検に加え、設備管理から運転管理までお客様のファシリティ全体を包括的にマネジメントしていく体制を目指していきます。

ファシリティマネジメントに向けた事業戦略



フィールドエンジニアリング事業の持続可能な事業発展においては、人的リソースへの対応が喫緊の課題となっています。現在、明電グループの保守サービス技術員の人財は、20~30代が不足する一方、40代の人員が多く、人員構成の偏りという深刻な課題に直面しています。

この課題に対し、新卒・キャリア採用など人財確保の取り組み強化を図る他、電気設備の実機を使用したメンテナンス実習やAR(拡張現実)・メタバース(仮想空間)等のデジタル技術を活用した教育などの充実により、人財の早期育成や技能伝承につなげています。

また、デジタル技術を活用したメンテナンス技術の確立にも取り組んでいます。遠隔から

保守・運用・修理のアドバイスサービスを提供することに加え、センシング技術と遠隔監視技術の融合やドローン・ロボット活用による簡易点検・異常時の初動などスマート保安を推進することで、新たな保守サービスモデルの構築を図っています。これらの取組みにより、設備トラブルの早期解決、メンテナンスコストの最適化、設備稼働率向上という、お客様と明電グループの双方にとってのメリットが生まれます。

これら人財確保・育成とデジタル技術活用、そして先に述べたパートナーシップの拡大の取組みにより、明電グループのフィールドエンジニアリング事業の持続的な事業発展を図っていきます。

活用 デジタル技術の人財の確保と



実機を使用したメンテナンス技術研修



IoTセンサーを取り付けたGX特高変電所